

## ラブリー! ジャパン

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

東京オリンピック・パラリンピック開催の前後、世界各国から大勢の人々が日本、そして大阪を訪れることでしょう。四季や名所の彩り、人々の暮らし、物語などに心寄せる絵画作品を中心に、愛すべき日本の美をご紹介します。



《伏見常盤絵巻》(部分) 室町時代・16世紀  
本館蔵(田万コレクション)

## 愉快奇怪 神獣図鑑：中国古代篇

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

中国古代の青銅器などには怪物のような得体のしれない不可思議な生き物があらわされています。そのすべての意味が解明されているわけではありませんが、本展では文様やかたち



《青銅 辟邪型水滴》 三国時代・3世紀  
本館蔵(山口コレクション)

ちをひとつひとつ読み解きながら、古代の人々の豊かな想像力を追体験します。夏休みの自由研究にもオススメです。

## 愉快奇怪 神獣図鑑：やきもの篇

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

古来やきものには、龍、鳳凰、獅子などの想像上の動物があらわされてきました。もともとは権威の象徴や幸福への願いを込めた文様でしたが、しだいに定番文様として定着。威厳に満ちたもの

からかわいらしいものまで、愉快奇怪な神獣文様の世界をご堪能ください。



《染付 富嶽雲龍図皿》 江戸時代・19世紀  
本館蔵(田原コレクション)

## 琳派の草花図

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

尾形光琳や酒井抱一など、琳派の絵師たちの作品は装飾的な画風に特色が見られます。そんな彼らの絵の中に、最もよく登場するものの一つが四季折々の草花です。「燕子花図」の修理完成を記念し、館蔵・寄託の優品から琳派による草花図を中心にをご紹介します。部屋を彩る華やかな世界をお楽しみください。

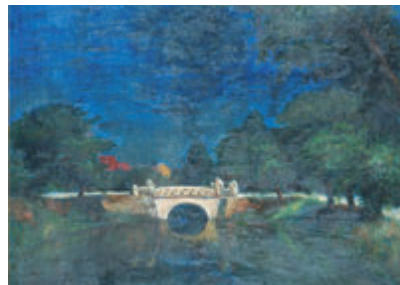


尾形光琳《燕子花図》 江戸時代・17-18世紀 本館蔵

## あおとき 青緑い刻

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月18日(日)

新たな「風景」を創造しようとする洋画家たちの試みは、昔も今も自然生命との親密な対話から始まります。目に鮮や



椿貞雄《風景》 大正12年(1923) 本館蔵

かな水や空の「青」、生い茂る草木の「緑」に向けられたまなざしを、中国の青磁、青花磁器とのコラボレーションでご鑑賞ください。

## 中国の石造彫刻

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月11日(日)

本館蔵山口コレクション中国石造彫刻を中心に、中国南北朝時代(5-6世紀)の仏像・道教像を展示いたします。

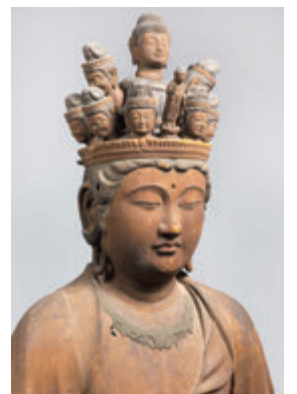
## 大阪の仏像

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月11日(日)

当館では、関西を中心に百数十を数える寺社より、多くの宝物をご寄託いただいています。本展では、大阪の寺院に伝わる仏像を展示いたします。



《石造 道教三尊像》  
北魏・延昌四年(515)  
本館蔵(山口コレクション)



《木造 十一面観音菩薩立像》(部分)  
鎌倉時代・13世紀 大阪・四天王寺  
本館蔵